

浜辺のゴミ、 ひとつ拾って、 なんになるのだろう。

秋の一日、会社のみならずビーチクリーン活動に参加した。
浜辺には、いろいろなものが落ちていた。ビニール袋、ペットボトル、空きカンや空きビン、釣り道具など。
プラスチックのものは、浜辺に来た鳥が食べて死んでしまうこともあるそうだ。
わたしたちの出した暮らしのゴミが、こんなに海を汚していることに、正直って驚いた。

わたしが勤めているルミネでも、いろんなものを売っている。
キレイなもの、かわいいもの、オシャレなもの、暮らしを彩る素敵なものたちも、思えば、いつかはゴミになる。
そのゴミを拾っている自分って何？ 浜辺のゴミをひとつ拾って、どこまで海がキレイになるの？
ちょっとした矛盾を感じつつ、でも、だからといって、何もしなくていいとは思わない。

たとえば、ポイ捨てをしない。ゴミの分別をしっかりとやる。モノをだいに使う。まだ使えるものはリサイクルに出す……。
身のまわりに、わたしにだってできることはいっぱいある。そう、できることから、ひとつずつ、着実にやっていく。
きょうのビーチクリーンは、その第一歩。帰り道、疲れた体に、海から吹いてくる風が心地よかった。

はじめに、ルミネの環境活動。

地球環境の問題を考え、みんなで取り組んでいこう。そんな大きな目標に向かって、ルミネは小さな一歩を踏み出しました。社内に環境推進のための「choroko」プロジェクトを立ち上げ、月1回会議を開き、さまざまなゲストをお招きして勉強したり、汗を流して行動したり、また、社員や関係会社のみなさんの環境意識を高める活動などを行なっています。
「choroko(チャロコ)」とは、スワヒリ語で「緑豆」を意味する言葉です。ルミネの環境に対する取り組みが、一人ひとりの心の中で着実に芽を吹き、大きく育っていくようにとの思いが込められています。

ビーチクリーン活動はそのひとつ。

11月17日、千葉県館山市の沖ノ島公園で行なったビーチクリーンも、「choroko」の活動のひとつです。ルミネと関係会社の有志約60名が参加して、浜辺のゴミを拾いました。今回のビーチクリーンはICC(国際海岸クリーンアップ)のグローバルな手順に従って行なわれ、集めたゴミは分類し、結果をデータ化して調査のために報告しました。また、ビーチクリーンの目的はゴミ拾いだけではありません。きれいな貝殻や石などを拾い集める「ビーチコミング」の楽しみも。「楽しさ」は環境活動の大切な要素。おもしろかった、楽しかった、次も行きたい、やってみよう、そんな好循環を広げていきます。

続けていくことの大切さ。

「choroko」の活動としては、今年の7月20日にも静岡県富士宮市に出かけ、森を再生させる間伐作業を体験しました。今後も継続的にさまざまな環境活動を続けていきます。
また、環境に対する私たちの気づきを独自の視点で編集し、お客さまと共有するフリーマガジン「ecoshare(エコシェア)」を年2回発行。ルミネらしいオシャレな視点でエコをとらえ、ナチュラルな暮らしに役立つ情報などをお届けしています。私たちが目指すのは、いま、できることを、ひとつずつ続けていくこと。そこから環境活動の輪を大きく広げていきたいと考えています。